

4/7(月)

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

読者の声

人口、経済の前提が変化した場合の所得代替率の将来見通し(令和6(2024)年財政検証)							
(人口) (経済)	中位推計	出生の前提が変化した場合 (死亡中位・入国超過数16万人)		死亡の前提が変化した場合 (出生中位・入国超過数16万人)		入国超過数が変化した場合 (出生中位・死亡中位)	
		出生高位	出生低位	死亡高位 (余命の延びが小さい)	死亡低位 (余命の延びが大きい)	入国超過数 25万人	入国超過数 6.9万人
高成長実現 ケース	56.9% (2039) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:31.9% (2039)]	58.5% (2035) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:33.5% (2035)]	55.5% (2043) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:30.6% (2043)]	58.5% (2035) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:33.6% (2035)]	55.2% (2043) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:30.3% (2043)]	57.8% (2039) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:32.8% (2039)]	55.9% (2040) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:30.9% (2040)]
成長型経済 移行・継続 ケース	57.6% (2037) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:32.6% (2037)]	59.0% (2034) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:34.1% (2034)]	56.4% (2041) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:31.4% (2041)]	59.2% (2033) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:34.2% (2033)]	56.0% (2042) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:31.0% (2042)]	58.5% (2037) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:33.5% (2037)]	56.6% (2039) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:31.6% (2039)]
過去30年 投影 ケース	50.4% (2057) [比例:24.9% (2026)] [基礎:25.5% (2057)]	53.0% (2049) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:28.1% (2049)]	(※)46.8% (2065) [比例:23.9% (2031)] [基礎:22.9% (2065)] 機械的に給付水準の 調整を続けると、2055 年度に所得代替率 50%を下回る。	53.0% (2049) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:28.1% (2049)]	(※)46.6% (2067) [比例:24.1% (2030)] [基礎:22.4% (2067)] 機械的に給付水準の 調整を続けると、2056 年度に所得代替率 50%を下回る。	52.0% (2053) [比例:25.0% (調整なし)] [基礎:27.0% (2053)]	(※)47.7% (2062) [比例:24.1% (2030)] [基礎:23.6% (2062)] 機械的に給付水準の 調整を続けると、2055 年度に所得代替率 50%を下回る。
1人当たり ゼロ成長 ケース	機械的に給付水準調整を続けると、 国民年金は2059年度に積立金が なくなり完全な賦課方式に移行	機械的に給付水準調整を続けると、 国民年金は2059年度に積立金が なくなり完全な賦課方式に移行	機械的に給付水準調整を続けると、 国民年金は2058年度に積立金が なくなり完全な賦課方式に移行	機械的に給付水準調整を続けると、 国民年金は2063年度に積立金が なくなり完全な賦課方式に移行	機械的に給付水準調整を続けると、 国民年金は2056年度に積立金が なくなり完全な賦課方式に移行	機械的に給付水準調整を続けると、 国民年金は2061年度に積立金が なくなり完全な賦課方式に移行	機械的に給付水準調整を続けると、 国民年金は2057年度に積立金が なくなり完全な賦課方式に移行